

1. 日 時 令和2年12月23日(水) 15:00～16:30

2. 開催場所 仙台市役所本庁舎2階 第一委員会室

3. 出席委員名(敬称略)

役職	氏名	出欠
会 長 (仙台大学 教授)	仲野 隆士	○
副会長 (東北福祉大学 特任教授)	鈴木 玲子	×
委 員 (仙台市学区民体育振興会連合会 副会長)	大久保 袈裟美	○
委 員 (東北学院大学 准教授)	岡崎 勘造	×
委 員 (仙台市スポーツ協会 副理事長)	草刈 恵佐雄	○
委 員 (仙台市障害者スポーツ協会 理事長)	熊谷 勇一	○
委 員 (仙台市レクリエーション協会 会長)	小池 和幸	○
委 員 (東北電力株式会社 地域共生ユニット部長)	今田 広志	○
委 員 (仙台市議会議員)	斎藤 範夫	○
委 員 (宮城教育大学 教授)	佐藤 節子	○
委 員 (仙台市スポーツ推進委員協議会 常任理事)	佐藤 園子	○
委 員 (仙台市小学校教育研究会体育研究部会常任委員)	佐藤 裕子	×
委 員 (東北生活文化大学 名誉教授)	土井 豊	○
委 員 (仙台市中学校体育連盟 会長)	日置 利道	×
委 員 (仙台市スポーツ少年団 本部長)	吉田 尚	○

4. 説明に出席した者の職・氏名

文化観光局長	高野 一樹
スポーツ振興課長	熊谷 拓郎
スポーツ振興課 企画係長	田中 輝
スポーツ振興課 主任	分田 亜矢子
スポーツ振興課 主事	熊谷 貴史

## 5. 会議の経過

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 局長挨拶
- (4) 報告事項

仙台市スポーツに関する意識調査の結果について

- (5) 議事の内容

進行役：仲野会長

議事録署名人の指名：吉田委員

仲野会長

次第に基づきまして、審議のほうを進行していきたいと思います。当審議会の会議録へ署名いただく委員につきまして、指名させていただきたいと思いますが、今回は吉田委員へお願いしたいと思います。吉田委員よろしいでしょうか。

吉田委員

わかりました。

仲野会長

それでは、吉田委員に議事録署名ということでお願いをしたいと思います。議事に入る前に今回より新たに加わっていただいた委員の方もいらっしゃるから、仙台市スポーツ推進審議会の役割につきまして、事務局より改めてご説明いただきたいと思います。

事務局

仙台市スポーツ推進審議会の役割につきまして、ご説明いたします。お手元の別添資料1「仙台市スポーツ推進審議会に関する条例」をご覧ください。審議会の任務につきましては、第二条に記載のとおり、「本市のスポーツ推進計画に関すること」や「スポーツの施設及び設備の整備に関すること」などについて審議することとなっております。なお、このあと皆様にご審議をいただきます仙台市スポーツ賞に関することなど、本市スポーツ施策の推進に関する事項の審議も、本審議会の役割となっております。以上でございます。

仲野会長

それではこれより報告事項に入りたいと思います。報告1 仙台市スポーツに関する意識調査の結果について、事務局より説明をお願いします。

事務局

「仙台市スポーツに関する市民意識調査」の結果につきましてご報告いたします。まずは、スポーツ推進計画検討委員会の開催状況につきまして、ご報告い

たします。

スポーツ推進計画検討委員会は、次期「仙台市スポーツ推進計画」を検討するため、令和2年1月に設置されました。

委員は9名で、うち7名が審議会委員、うち2名が外部からの委員となっております。

これまでに3回開催し、第1回は、「スポーツに関する意識調査の実施について」ということで、調査方法及び調査項目について検討いたしました。

第2回では、「スポーツに関する意識調査の質問項目について」ということで、第1回の際に検討した事項を踏まえ、調査票案について書面にて確認をいただきました。

第3回は、「スポーツに関する意識調査の中間報告について」と「本市の運動・スポーツを取り巻く現状と課題について」ということで、委員の皆さまのご意見を伺ったところです。

なお、月に第4回の検討委員会を予定しており、次期計画の方向性等について議論する予定にしています。

次のページをご覧ください。

はじめに、「仙台市スポーツに関する意識調査」の概要についてご説明いたします。

(1) 調査目的 「仙台市スポーツ推進計画」が令和3年度で計画期間の満了を迎えることから、本市スポーツ施策の取り組みに対する評価と次期計画策定の基礎資料として、スポーツを取り巻く情勢やそれに伴うニーズ等を把握することを目的として実施

(2) 調査期間 令和2年6月17日～7月17日

(3) 調査対象 3,000人

仙台市在住で、令和2年5月1日現在、15歳以上80歳未満の男女を各区の人口比に応じ、無作為に抽出

(4) 調査方法 自記式のアンケート調査票（無記名）を郵送にて配布・回収

(5) 有効回収率 50.9% (1,526人/3,000人)

前回調査（平成28年度）：48.1%

次のページをご覧ください。

ここでは、「仙台市スポーツ推進計画2012-2021」において掲げております数値目標に関連する項目についてご説明いたします。

「仙台市スポーツに関する意識調査」では、「仙台市スポーツ推進計画2012-2021」の数値目標6項目のうち、お手元の資料に記載の4項目について調査しました。

まず、数値目標の達成状況でございますが週1回以上運動やスポーツを行う人を40.0%にする目標に対し、結果は、39.3%で、目標値より

0.7ポイント低い結果となりました。市や地域のスポーツ団体などが主催するスポーツ行事等に参加する人を35.0%にする目標に対し、結果は、18.7%で、目標値より16.3ポイント低い結果となりました。年1回以上競技場でスポーツ観戦する人を50.0%にする目標に対し、結果は、40.3%で、目標値より9.7ポイント低い結果となりました。スポーツボランティアなどの協力活動をする人を8.0%にする目標について、結果は、2.9%で、目標値より5.1ポイント低い結果となりました。つづきまして、それぞれの項目ごとにご説明いたします。次のページをご覧ください。

運動やスポーツの実施状況についてご説明いたします。①の週1回以上運動やスポーツを行う人の割合は、「ほとんど毎日」行う人が16.8%、「週に1～2回程度」行う人が22.5%であり、合計すると39.3%です。「仙台市スポーツ推進計画2012-2021」の目標として、週1回以上運動やスポーツを行う人が40.0%になることを目指しておりますが、目標値より0.7ポイント低いものの、概ね目標を達成したものと考えています。過去の調査と比較しますと、平成22年度調査の36.4%、平成28年度調査の31.1%よりポイントが上昇しました。グラフは掲載していませんが、実施した運動やスポーツで多く挙げられたものは、「ウォーキング(58.8%)」、「体操・ストレッチ(37.1%)」、「階段昇降(36.6%)」でした。性別、年齢別の目標達成状況をみますと、男性では30歳から64歳まで、女性では20歳から49歳までが目標値より低い状況です。

次のページをご覧ください。

②の運動やスポーツをした理由としては、「健康や体力の保持増進のため(55.5%)」、「運動不足解消のため(47.8%)」が多く挙げられました。

また、③の運動やスポーツを習慣化するために必要だと思うこととして多く挙げられたのは、「日常生活の中で気軽に取り組めること(59.2%)」、「希望する運動やスポーツができる施設等が自宅や職場の近くにあること(45.0%)」、「運動やスポーツに係る費用が安いこと(45.0%)」でした。

次のページをご覧ください。

④の運動やスポーツをしなかった理由としては、「時間がないから(32.0%)」、「機会がないから(29.0%)」が多く挙げられました。グラフは掲載していませんが、性別、年齢別では、ほとんどの層が「時間がないから」「機会がないから」を最も多く挙げている中で、男性では、15歳から19歳の層で「時間がないから」と同率で「疲れるから」が最

多、女性では、30歳から39歳の層で「子育てに忙しいから」、65歳以上の層で「歳をとったから」が最多でした。

次のページをご覧ください。

つづきまして、地域のスポーツ活動についてご説明いたします。

ここで地域スポーツ団体としているのは、「学区民体育振興会」や「マイタウンスポーツ協会」等のことです。

学区民体育振興会は、各種スポーツ大会への参加や、学区民運動会等の事業を通して、地元学区民（小学校区）の体力向上や健康増進を目指して活動しています。

マイタウンスポーツ協会は、スポーツの日に実施する「マイタウンスポーツデー」や、区民まつりへの参加など、各区のマイタウンスポーツ活動の中心として、活動しています。

①の市や地域スポーツ団体などが主催するスポーツ行事に参加する人の割合については、18.7%でした。

「仙台市スポーツ推進計画 2012-2021」では、35.0%になることを目指しておりますが、目標値より16.3ポイント低い結果となりました。過去の調査と比較しますと、平成22年度調査が33.8%、平成28年度調査が22.8%で、減少傾向にあるといえます。

グラフは掲載しておりませんが、参加したことのある行事は、「レクリエーション的行事(63.3%)」が最も多く、次に「競技会的行事(32.9%)」が挙げられました。

②の行事に参加しなかった理由で64.4%と最も多く挙げられたのは「知らなかったから」で、次に28.1%の「地域交流があまりないから」でした。

次のページをご覧ください。

総合型地域スポーツクラブについては、③をご覧ください。

総合型地域スポーツクラブは、地域の方々が運営し、子供から高齢者まで自分の体力や技術・技能レベルに応じて生涯にわたり楽しく継続的にスポーツ活動を行うことができる会費制の多種目・多世代型のスポーツクラブのことです。

本市では、現在、13の総合型地域スポーツクラブが活動しています。総合型地域スポーツクラブを知っている人の割合は、「内容を知っている(4.2%)」と「名前は聞いたことがある(14.6%)」を合わせて18.8%でした。

過去の調査と比較しますと、平成22年度調査が9.3%、平成28年度調査が10.6%で、増加傾向にあります。

④の総合型地域スポーツクラブへの参加するための条件については、「自分のやりたい種目があること(56.5%)」「費用が安価なこと(55.7%)」

「参加しやすい場所であること（48.7%）」が多く挙げられています。次のページをご覧ください。

次に、スポーツ観戦についてご説明いたします。

①の年1回以上競技場でスポーツ観戦する人の割合は、「観戦したことがある」が40.3%でした。

「仙台市スポーツ推進計画 2012-2021」では、50.0%になることを目指しておりますが、目標値より9.7ポイント低い結果となりました。過去の調査と比較しますと、平成22年度調査が47.2%、平成28年度調査が44.6%で、減少傾向にあるといえます。

②の競技場で直接観戦したことがない理由では、「時間がないから」が34.6%、「興味がないから」が34.4%、「テレビやスマートフォン等で観戦する方がよいから」が30.2%でした。

次のページをご覧ください。

③の東北楽天ゴールデンイーグルスやベガルタ仙台、仙台89ERSなどの地元プロスポーツチームへの関心の有無は、「おおいに関心がある」が22.1%、「まあまあ関心がある」が45.3%となりました。

次のページをご覧ください。

次に、スポーツボランティアについてご説明いたします。

①のスポーツボランティア等の協力活動を行う人の割合は、「活動したことがある」が2.9%でした。

「仙台市スポーツ推進計画 2012-2021」では、8.0%になることを目指しておりますが、目標値より5.1ポイント低い結果となりました。過去の調査と比較しますと、平成22年度調査が5.5%、平成28年度調査が2.9%で、平成28年度調査と同じでした。

グラフの掲載はしていませんが、したことがある活動は、「大会・イベントの運営の手伝い」が50.0%と最も多く、「スポーツの指導・コーチ」「スポーツの審判・役員」「団体・クラブの運営の手伝い」がそれぞれ29.5%でした。

②の今後、活動に参加したいと思う人の割合については、「活動したいと思う」が12.2%で、「活動したいと思わない」が35.8%でした。

以上、「仙台市スポーツに関する意識調査」の結果の中から、現在の本市スポーツ推進計画において掲げる数値目標との関連項目についてご報告いたしました。

その他の調査項目の結果につきましては、お手元に配布いたしました報告書をご一読いただければと存じます。

なお、本調査結果に関しましては、11月22日に開催いたしました「第3回スポーツ推進計画検討委員会」において既に報告しているところであ

り、今後本調査結果から導き出された課題等を踏まえながら、次期計画の方向性について検討委員会で議論していくこととしております。  
以上でございます。

仲野会長

ありがとうございます。事務局より、説明いただきましたが、何かご意見等ございますでしょうか？

斎藤委員

よろしいでしょうか。今、ご説明いただきまして、数字を見ると衝撃的ですけども、端的に言って、現在の計画の目標が高いのか、あるいは取り組みが悪いのか、達成率がかなり低いですね。そして、前回の意識調査の結果や前回の計画策定時の数値よりも、調査の回を重ねるごとに低下している現状があります。これはかなり深刻な状況ではないのかと思っております。11月25日に検討委員会が開催されて、現状と課題について検討したということですが、詳細までご説明ありませんが、どういう課題があると検討されているのでしょうか。

事務局

今後具体的な課題について検討委員会にて検討していくこととなりますが、ご指摘のとおり目標の数字には届いていない項目があり、また、大きく届いていない項目もあるという状況でございます。調査の結果、スポーツをしない方は「時間がない」「忙しい」といった回答が多く、生活スタイルの多様化などが理由にもあると承知しております。一方でスポーツをした人はどのくらい増えているのか、40%という目標については、かなり目標に近い数字になっておりまして、スポーツをする人自体が大きく減っているわけではないということがわかりました。時間がない中でどういうスポーツをやれるのか、実際にスポーツをしたという人でもランニングや散歩という運動も含めて、関わっていけるスポーツを皆さんにやっていけるようにするのかというのが一つの課題であろうと考えております。また、大きく目標に届いていない項目として、地域スポーツ団体への参加率がございます。これも参加しない理由として「イベントを知らない」「団体自体知らない」という意見もございまして、それぞれ知名度の向上というのも課題であろうと思っております。先ほど申しましたような「時間がない」「忙しい」といった中で参加できる地域スポーツ活動がどういうものなのか、そういったことも併せて検討していく必要があるかと思っております。地域スポーツ活動、また、個人でも参加しやすい活動というものを検討する中でスポーツボランティアへの関心、またプロスポーツも含めたスポーツへの関心を高めていけるような取り組みにつなげていく計画づくりというものを目指していければと考えております。

斎藤委員

ありがとうございます。スポーツ推進計画の今後の策定スケジュールと検討委員会、本審議会とのスケジュール的な関係がどういう風になっている

のかお示しただけませんか。

**事務局**

1 1月の検討委員会においても調査結果について様々なご意見等をいただいております。その内容も踏まえまして来年3月の第4回にて次の計画にどのような項目を掲載していくべきなのかを議論したいと考えております。新年度に入りましてからは、5月を目途に第5回の検討委員会を予定しております。ここで計画の骨子案について検討できればと考えております。第5回検討委員会の議論を踏まえまして、来年の7月にスポーツ推進審議会の場で計画の骨子案についてご審議いただくことを想定しております。その後、8月に開催する第6回検討委員会で審議会での議論を踏まえまして中間案の検討を進めたいと考えております。10月を目途にスポーツ推進審議会において、中間案についての審議、またこの中間案についてのパブリックコメントの実施についての審議を予定しております。年末に市民へのパブリックコメントを行い、それから結果の取りまとめを行いまして、年明け1月に検討委員会にてパブリックコメントの結果報告と最終的な案をどうするかについて議論をいたします。2月に審議会にパブリックコメントを踏まえた最終案についてご審議いただく、その審議を踏まえまして最終的には教育委員会への付議、市長への答申といったスケジュールを考えております。

**仲野会長**

前回の検討委員会に私も出ておりましたが、やはりスポーツをする「時間がない」という意見があります。おそらく時間がないわけではなくて、時間の使い方の優先順位にスポーツが高い位置にいないのだろうと。他の優先順位が高くて、いかにスポーツの順位を上げるような方向性を見出したい。そのためにいろいろ工夫をしてアイデアを出していきたいと思えます。最終的には再来年の3月に市長に答申するということですので、それに向けて滞りなく計画を進めていきたいと考えております。

それでは続けてよろしいでしょうか。

それでは、続きまして、審議事項に入らせていただきます。議事1「仙台市スポーツ賞顕彰基準の改正について」事務局より説明をお願いします。

**事務局**

それでは、お手元に、本日配布いたしました議事資料1「仙台市スポーツ賞顕彰基準の改正について」と、「仙台市スポーツ賞事務取扱要領 新旧対照表」をご用意ください。

仙台市スポーツ賞顕彰基準改正の概要ですが、スポーツ栄光賞の国内大会に係る顕彰基準を改正するものです。新旧対照表の左側現行の基準を見ますと、国体種目の全国大会が栄光賞の対象となっております。国体種目になっていない競技は、その他の大会扱いとなり、栄光賞ではなく、奨励賞となります。他都市の顕彰制度を調査したところ、国体種目と明記してい



るものは見当たらず、日本スポーツ協会中央競技団体種目を顕彰対象としております。しかし、中央競技団体種目だけでは、栄光賞の対象とならないオリンピック種目が発生することから、日本オリンピック委員会正加盟団体競技種目についても顕彰基準に追加いたします。

また、ジャパンパラリンピックのみが栄光賞の対象となっている障がい者スポーツについては、日本障がい者スポーツ協会または日本パラリンピック委員会加盟団体が主催する大会を栄光賞の顕彰基準に追加するものです。

この改正により、追加となる種目・大会が下の表のとおりです。表の左側2列とスポーツチャンバラまでが日本スポーツ協会中央競技団体、右側の※印が日本オリンピック委員会正加盟団体を追加することで対象となる種目です。本市スポーツ賞でも過去に表彰をしたダンススポーツやリージュ、また、新たにオリンピック種目に追加されたサーフィンやスケートボードの国内大会についても栄光賞として表彰が可能となります。

障がい者スポーツについては、ご覧の大会が栄光賞の対象大会となります。2番目の「天皇杯争奪日本車椅子バスケットボール選手権大会」は昨年大賞を受賞した宮城MAXが11連覇している大会でございます。

事務取扱要領の改正時期ですが、令和3年4月1日より運用を開始できるように改正いたします。以上でございます。

仲野会長

ありがとうございます。

事務局より、説明いただきましたが、何かご意見等ありますでしょうか？特になければ、こちらは提案のとおりお認めしてよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

仲野会長

それでは、続きまして、議事2「会議の公開等に関する取扱い」についてです。本日も配りしております議事資料2「会議の公開等に関する取扱い」をご覧ください。

本日の議事3は仙台市スポーツ賞の審査であり、候補者の顕彰の種類を決めるため率直な意見の交換や意思決定における中立性が必要となります。これは「附属機関等の設置及び運営の基準に関する要綱」の第4条第2号イに規定する非公開事由に該当いたしますことから、議事3「令和2年仙台市スポーツ賞について」を非公開としたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

仲野会長

それでは、異議なしということですので、非公開で進めていきたいと思  
います。

それでは、続きまして議事(3)「令和2年仙台市スポーツ賞について」に入  
らせていただきます。ここからは非公開となります。

事務局

以上をもちまして、本日の審議会を閉会いたします。

長時間にわたりご審議を賜り、ありがとうございました。

(6) 閉 会